

## 《国語》指導と評価の探究に向けて — 実態把握のための調査方法の考察 —

戸 谷 精 三\*

### A Search for direction and evaluation on Japanese —A Study on a method of research for the actual conditions—

TOYA Seizo

キーワード：国語教育，基礎学力，実態調査，課題図書，評価

#### はじめに

中学校の卒業生を受け入れる教育機関において、国語教育に携わるようになってから28年が経過しようとしている。高等学校での期間が11年間、高等専門学校での指導期間が17年になろうとしている。学習指導要領も、三回改訂された。昭和53年度の改訂では、従来の「現代国語」、「古典」から、「国語Ⅰ」、「国語Ⅱ」のような科目に改訂され、教科書の構成をも大きく変える改訂であった。さらに、このような改訂は平成10年度の改訂でも明示され、必修科目「国語Ⅰ」、準必修科目「国語Ⅱ」は、この改訂に伴って設けられた科目の中から、「国語総合」、または「国語表現Ⅰ」の必修となった。

この間一貫して、国語教育に携わる中で、国語教育について様々の問題に直面しながら、国語指導に努めてきた。教科書の音読指導について考えた場合でも、小説、随筆、などの散文作品の音読と、詩、短歌、俳句などの韻文作品の音読に関する指導方法が異なることは明らかである。漢字の書き取りの指導方法、さらには、小論文の指導方法など解決しなくてはならない問題は多岐にわたる。国語指導者が、相互に吟味、検討する過程で、導かれた指導方法による授業展開、指導方法も生まれた。国語教育の研究成果や国語教育研究者の助言が、よりよい指導方

法となって学習集団を導くこともあった。先学の指導法に学び、国語指導について検討しながら研究を進め、問題解決に努めてきたが、今もって課題として抱えている問題も少なくない。

小論においては、こうした課題解決の方策に向けて、あらゆる機会に求められる実態把握に関連した問題について、吟味、検討しながら考察を試みることにしたい。

#### 1. 《国語》指導と実態把握

中学校の卒業生を受け入れる教育機関において、学習指導要領の内容が教育課程や授業等に、どのような関連性をもって反映されるものかは、その教育機関の特徴や特性などによって必ずしも一様であるとは言い難い。大半の中学校の卒業生が進路選択する高等学校においては、学習指導要領に従いながら適切な教育課程を編成して、学習指導要領に従って編集された、いわゆる検定教科書を主要な教材として採択して授業を進める。さらに、この学習指導要領において、すべての生徒に履修させる各教科・科目についても言及されるため、自ずから基礎学力や標準的学力についても検討されることになる。しかしながら、高等専門学校などのように、学習指導要領の内容を遵守する方策を採ることなく教育課程の編成が可能である教育機関においては、主要な教材の採択についても検定教科書ばかりでなく、学校の教育方針によって教材を決定することが可能である。

\* 一般科助教

そのため学習指導要領に従い教育課程を編成して、教育活動を展開する教育機関においては既に指針となって呈示されている基礎学力や標準的学力について、指導者自身が看過することなく吟味、検討することが求められる。進路選択の結果、異なる教育機関において学習活動を継続してはいるが、当該世代の学習者間に基礎学力や標準的学力に大きな差異が認められることはないと思われる。

基礎学力や標準的学力について、国語教育の観点から検討しながら、さらに探究する上でも、国語教育の基本的文献である国語教育事典などでは、現在どのように考えられているのか調べておきたい。参考文献は、いずれも公共図書館等において、比較的閲覧が容易である文献である。基礎学力や標準的学力の項目の中から、概要を適宜引用しておく。

野地潤家 編 『国語科重要用語300の基礎知識』明治図書 1981年

〈基礎学力〉の項目の解説

言語活動（読む、書く、聞く、話す）諸能力に対しては、音声・文字・表記・文法の諸能力がその基礎となる。また、言語活動の中では、聞く・話す能力がその基礎となるという考え方がある。

国語の基礎学力の習得度と、その発達について継続調査したものとして、国立国語研究所の『小学生の言語能力の発達』（明治図書 1966年）がある。

基礎学力の不足が言われ始めてから久しいが、基礎学力とは何かを明確にし、しっかりした調査が継続的に行われる必要がある。

国語教育研究所 編 『国語教育研究大事典』明治図書 1991年

〈学力標準検査〉の項目の解説

定義 学力標準検査は、獲得された学力を客観的に測定するために行われる検査をいう。そのねらうところは、学力の個人差を測定し、集団内の相対的位置づけを行うことにある。一般に、専門家の手によって十分に研究された、結果解釈のための規準（norm）を備えた客観テストが用いられる。教師作成テストにおいては、その対象が学級内、学校内に限定され、教師の日常の指導と密接に結びついた形で生徒の学力が測定されるのに対し、世間一般の児童生徒との比較を通し、個々の生徒の相対的な学力や、当該学級あるいは当該学校の学力水準を知ることができる点に、利用上の価値を見いだすことができる。

田近洵一、井上尚美 編 『新訂 国語教育指導用語辞典』教育出版 1993年

〈学力論〉の項目の解説

学力とは

学力とは後天的な学習によって獲得された能力であり、現実生活を開拓していくための能力である。一般的には、学校教育における教科学習を通じて獲得される知的・技術的・美的・感覚能力などを指す。学力という用語は教育界においては「学力検査」「学力年齢」「学力紙数」などと幅広く使用される。

学力論の課題

態度主義的学力間と能力主義的学力間のどちらを支持するあるいは否定するかという問題よりも、それぞれを厳しく批判しながらいかに止揚していくかという問題こそ今後の学力論の課題であろう。それは、最近の評価研究が計測可能な知識・技能面の到達目標を認知領域として設定するとともに、意欲や関心・態度といったものの到達目標を情意領域として設定していることから明らかである。

大槻和夫 編 『国語科重要用語300の基礎知識』明治図書 2001年

〈国語学力〉の項目の解説

定義 国語科教育における意図的・計画的な学習を通して学習者に身につけられる言語能力のこと。また、広く、社会あるいは言語生活において獲得される言語能力を含めていう場合もある。

—中略—

学力は指導要領に代表されるように、一般的な目標として表されることが多い。しかし、実際の学力は、授業目標を達成しようとする学習の過程において、学習者によって身につけられるものであり、その過程には、教材、下位の知識や技能、学習者が既に身につけている学力や経験などが関わっている。国語学力は、目標としてだけでなく、具体的な教材や学習内容、学習者、授業との結びつきにおいてとらえられなければならない。

—以下略—

国語教育の観点から、基礎学力や標準的学力について解説された基本文献を一読した段階において、基礎学力や標準的学力について検討し、さらに研究する上で、調査や検査などが基本的項目として看過できないことが理解できる。実施した調査を集計して、その集計結果に基づいて実態を把握することから、基礎学力や標準的学力、国語学力論への進展が

可能であり、実態を把握することなくして、こうした論議の探究は考えられないと思われる。

そこで、こうした発展的要素についても考慮しながら、まずは現在まで継続指導している、読書指導における課題図書調査の集計方法について検討してみたい。

### 2. 課題図書読書調査

長期休業の課題として、読書指導を継続している。中でも1、2年生を対象とした読書指導においては、あらかじめ推薦図書を選定して、この推薦図書の中から個々に選択した作品を課題図書として、読書感想文をまとめるように指導している。課題内容と推薦図書について、具体的に指導内容を呈示しておきたい。

#### ☆課題内容

1. 右記の推薦図書の中から1冊選んで読み、感じたこと、考えたことを800字詰原稿用紙1枚に書く。(あらすじは不要)
2. 右記、またはそれ以外から(自然科学分野は除く)1冊選び読み、カード形式の用紙2枚に以下のように書く。

用紙に内容、寸評を書く。

必須項目 書名 著者名 出版社名 総ページ数(冊) を書く。

氏名には必ずクラス,NO.を書く。

提出期日 月 日(曜日)

.....切り取り線.....

#### 読書調査

( )組 ( )番( )

1. 推薦図書1～39の内ですでに読んだことのあるものの番号に○をつけなさい。

- |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |    |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 |    |
| 38 | 39 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |

2. 上記以外の書物で過去1年間に読んだものを書きなさい。

3. 好きな作家があったら書きなさい。

#### ☆推薦図書

書名	著者
1 三四郎	夏目 漱石
2 コインロッカーベイビーズ	村上 龍
3 阿部一族	森 鷗外
4 破 戒	島崎 藤村
5 風の歌を聴け	村上 春樹
6 銀河鉄道の夜	宮沢 賢治
7 河 童	芥川 龍之介
8 野菊の墓	伊藤 左千夫
9 友 情	武者小路実篤
10 伊豆の踊子	川端 康成
11 沈 黙	遠藤 周作
12 金閣寺	三島由紀夫
13 路傍の石	山本 有三
14 裸の王様	開高 健
15 次郎物語	下村 湖人
16 天平の薨	井上 靖
17 風立ちぬ	堀 辰雄
18 人間失格	太宰 治
19 酔いどれ船	北 杜夫
20 点と線	松本 清張
21 海を感じる時	中沢 けい
22 戒厳令の夜	五木 寛之
23 血 族 (または『家族』)	山口 瞳
24 素直な戦士たち	城山 三郎
25 闘	幸田 文
26 湿 原	加賀 乙彦
27 阿Q正伝	魯 迅
28 異邦人	カミュ
29 ジキル博士とハイド氏	スチーブンスン
30 若きウェルテルの悩み	ゲーテ
31 武器よ去らば	ヘミングウェイ
32 狭き門	ジイド
33 ハムレット	シェークスピア
34 車輪の下	ヘルマン・ヘッセ
35 黄金虫	エドガー・アラン・ポー
36 罪と罰	ドストエフスキー
37 復 活	トルストイ
38 老人と海	ヘミングウェイ
39 ライ麦畑でつかまえて	サルンジャー

推薦図書の選定方針については、検討を続けながらも明確に結論づけることは困難を伴う。しかしながらできる限り、作品が生まれた時代や社会を超

えて読み継がれた作品を、課題図書として丹念に読み進めながら読書感想文を書くことによって、知見を広めることができ得るような作品を選定するよう努めている。

この推薦図書について、読書の実態を把握することが可能なシステムの構築方法について検討を進めた。回答者一人一人の読書歴を集計する作業は、集計者が一人の場合には負担が大きく、指導対象とした1学年5クラス、200余名の学習集団の全体像を整理することは、個人の段階で集計を進める場合は困難が伴った。そのため、クラスごとに集計担当者を選任して、でき得るならば複数の担当者によって集計が進められる。個人が集計作業を進める場合も、できる限り負担が少なく、正確な集計作業の進行とともに、学習集団の実態把握が可能となるようなシステムの構築に努めるため、検討を進めた。

### 3. システム構築について

#### (1) 調査

読書調査用紙を配布し、推薦図書の中から既に読んだことのある作品に、○印をつけてもらう。それぞれの作品名には、あらかじめ図書整理番号（以下「図書番号」という）を付けておく。

#### (2) 集計準備

本調査の集計については、できる限り汎用性の高いシステムを構築することが肝要である。そこで、一般的に利用が可能であり、利便性にも優れた表計算ソフトを活用することが望ましいと考えられる。特殊な方法を用いることなく、一般的にも利用可能である表計算ソフトの中から、本システムの構築に際しては、Microsoft Excel を用いて集計を行うことにする。

[データ入力]ワークシートと[結果出力]ワークシートを作成する。[結果出力]ワークシート上の書名・著者名欄には、アンケートの図書番号と一致するようにして作成する。

#### (3) データ入力

アンケートを元にして、[データ入力]ワークシート上に各クラスごとに、図書番号を入力していく。アンケートで○印のついている作品名の図書番号を入力する。

本システムの構築にあたっては、入力のインターフェースの部分をデータ入力用シートに図書番号を直接入力するという方法で構築したため、図書番号ごとの合計数を[結果出力]ワークシートに集計する

必要がある。

そこで、COUNTIF 関数を使用することを検討した。これは、該当する数値・文字列のデータが指定した範囲内にいくつ存在するかを数える関数である。これによって、入力された図書番号を数え、各クラスの作品ごとの読者数を計算することができる。

COUNTIF 関数では、カウントするシートの名前を指定できるので「[ワークシート名]!範囲」のフォーマットで別のワークシートのデータを参照することを可能にしている。

=COUNTIF(データ入力!\$B\$5:\$B\$600,A5)

=COUNTIF(データ入力!\$C\$5:\$C\$600,A5)

#### (4) 集計方法

[データ入力]ワークシート上で各クラスごとに入力された図書番号は、Microsoft Excell の COUNTIF 関数によってそれぞれ教えられ、[結果出力]ワークシートの各行にクラスごとに出力され表示している。各クラスの合計を足したものを全体の合計として表示している。

下記に示すのが図書番号1番の1組の集計結果出力の関数である。

「=COUNTIF(データ入力!\$B\$5:\$B\$600,A5)」

COUNTIF 関数は、「[ワークシート名]!範囲, カウント対象文字列」のフォーマットで使用できる。

範囲指定の部分であるが、「\$B\$5:\$B\$600」となっているが、この「\$」というのは絶対参照を意味する記号で、関数を下の行へコピーするさいに、「\$」をつけていないと、

「B5:B600」→「B5:B601」→「B5:B602」・・・というふうに、行の列がスライドしていってしまう。

しかし、今回はデータ入力シートの入力方法からわかるように、図書番号ごとの検索範囲は全て同じであるので、範囲指定がかわってしまうと集計がうまく行われなくなる。

そこで、「\$」をつけて絶対参照にした。

カウント対象文字列の部分は、結果出力シートの問題番号の数字を示している。これは、コピーした際に行ごとによって変わって欲しいので「\$」はつけずに相対参照としてある。下の行にコピーすると、

「A5」→「A6」→「A7」・・・となっていく。

このようにして構築したシステムを活用して、読書指導の中にある推薦図書について、読書調査を実施した。平成14年度1年生と平成15年度1年生について調査した中で、平成15年度1年生の集計結果を参考資料として小論の末尾に付した。御参照いただきたい。

#### 4. 今後の展望

今回は、図書調査に関連した集計方法について、具体的に検討を進めた。しかしながら、本システムは、このような図書調査のために特化したシステムとして構築したものではなく、あくまでも実態調査の集計方法として、広汎な活用が望めるシステムを構築するための初期段階として、着手したものである。

そのため、本システムは現在の段階においても、以下に考えられるような項目について、定期考査、授業時間内に実施する小テストやドリルなどの集計に援用することが可能である。いずれの項目についても、各クラスごとの実態が把握できるとともに、学年全体の実態についても同時に掌握できる。

- ① 問題ごとの正答者の実数
- ② 選択肢を設けた問題について選択肢ごとに選択者数の集計
- ③ 記述式解答問題について得点別の実数集計

従来、このような項目について調査・集計を試みる場合、多くの時間と人員の確保が課題であった。しかし本システムを活用することで、必ずしも時間と人員の確保に左右されることなく、実態を把握することが可能である。このような観点から、学習集団の実態を把握することが可能になると、学習集団の特徴について検討することができるようになり、その学習集団に最も適した学習指導方法の検討へと伸展する。そのことが、学習集団が求める授業を展開するための教材研究となる。

さらに、この学習集団のための教材研究が、学習集団を形成する〈個〉の学習者にとって求められる授業の在り方を研究することも可能になるものと思われる。

先にも述べたように本システムは、実態調査の集

計方法として、広汎な活用が望めるシステムを構築するための初期段階にある。こうした発展的段階へと進展するためには、本システムがさらに教材研究、授業研究などに資するためのシステムとなるよう研究を進めたい。

#### 参考文献

- 1) 野地潤家 編 『国語科重要用語300の基礎知識』明治図書 1981年
- 2) 国語教育研究所 編 『国語教育研究大事典』明治図書 1991年
- 3) 京極興一 『「国語」とは何か』東苑社 1993年
- 4) 益地憲一 『国語評価の実践的探究』溪水社 1993年
- 5) 田近洵一、井上尚美 編 『新訂 国語教育指導用語辞典』教育出版 1993年
- 6) 大槻和夫 編 『国語科重要用語300の基礎知識』明治図書 2001年

#### 附 記

長期休業期間中の読書指導に関しては、長野工業高等専門学校着任時、当時一般科教授として国語を担当されていた二澤久昭先生（現 長野工業高等専門学校名誉教授）が、継続指導されていました。読書指導について、御示教いただきながら、推薦図書については、年度ごとに吟味、検討してきました。記して厚く御礼申し上げます。

本システムを構築するについて、長野工業高等専門学校電子情報工学科5年、飯吉建彰君より専門的知識の供与を受けました。経緯を記して、厚く御礼申し上げます。

## 参考資料

## 平成15年度読書調査一覧

	書名	著者	1組	2組	3組	4組	5組	合計
1	三四郎	夏目 漱石	0	1	3	5	0	9人
2	コインロッカーベイビーズ	村上 龍	0	0	1	0	0	1人
3	阿部一族	森 鷗外	0	0	0	0	0	0人
4	破 戒	島崎 藤村	0	0	0	1	0	1人
5	風の歌を聴け	村上 春樹	0	0	1	0	0	1人
6	銀河鉄道の夜	宮沢 賢治	4	5	8	11	14	42人
7	河 童	芥川 龍之介	6	6	7	5	4	28人
8	野菊の墓	伊藤 左千夫	1	1	0	2	1	5人
9	友 情	武者小路実篤	0	0	0	1	0	1人
10	伊豆の踊子	川端 康成	2	1	2	3	2	10人
11	沈 黙	遠藤 周作	0	0	2	0	0	2人
12	金閣寺	三島由紀夫	1	0	1	1	2	5人
13	路傍の石	山本 有三	0	1	0	0	0	1人
14	裸の王様	開高 健	1	1	2	0	0	4人
15	次郎物語	下村 湖人	0	0	1	0	0	1人
16	天平の甍	井上 靖	0	1	1	0	0	2人
17	風立ちぬ	堀 辰雄	0	0	0	0	0	0人
18	人間失格	太宰 治	3	1	4	3	1	12人
19	酔いどれ船	北 杜夫	0	0	0	0	0	0人
20	点と線	松本 清張	0	0	1	0	1	2人
21	海を感じる時	中沢 けい	0	0	0	0	1	1人
22	戒厳令の夜	五木 寛之	0	0	0	0	0	0人
23	血 族 (または『家族』)	山口 瞳	0	0	1	0	0	1人
24	素直な戦士たち	城山 三郎	0	0	0	0	0	0人
25	闘	幸田 文	0	0	0	0	0	0人
26	湿 原	加賀 乙彦	0	0	0	0	0	0人
27	阿Q正伝	魯 迅	0	0	0	0	1	1人
28	異邦人	カミュ	0	0	1	0	0	1人
29	ジキル博士とハイド氏	スチーブンソン	3	1	6	5	1	16人
30	若きウェルテルの悩み	ゲーテ	0	1	1	0	0	2人
31	武器よ去らば	ヘミングウェイ	0	0	1	0	0	1人
32	狭き門	ジイド	0	0	2	0	0	2人
33	ハムレット	シェークスピア	1	1	5	3	0	10人
34	車輪の下	ヘルマン・ヘッセ	0	1	4	1	0	6人
35	黄金虫	エドガー・アラン・ポー	3	1	2	1	0	7人
36	罪と罰	ドストエフスキー	1	0	2	1	0	4人
37	復 活	トルストイ	0	0	1	0	0	1人
38	老人と海	ヘミングウェイ	1	0	3	2	1	7人
39	ライ麦畑でつかまえて	サルインジャー	3	1	4	6	1	15人